

平成29年度 シラバス (航海・計器 B)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	水産 (航海・計器 B)	単位数	2 単位	学年 (コース)	3 学年 (海洋技術コース)
使用教科書	航海・計器 (海文堂出版株式会社 発行)				
副教材等	四級海技士 (航海) 800 題 問題と解答				

1 学習目標

船舶を安全かつ適切に航海するために必要な知識と技術を習得させ、実際に漁業生産など海上業務に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

船舶職員 (乗組員) として基本的な知識と技術が必要なことから

- ①航海計器を適切に取扱うために必要な知識と操作の方法ができるようになる。
- ②海上交通三法を的確に理解し、航法規定に基づいた適切な行動がとれる判断力を付ける。
- ③実験・実習を通して、船舶の安全な航海について理解する。

3 学習計画

月	単 元 名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	基本航海計器 六分儀	名称 誤差 使用方法	○六分儀の各部名称や誤差について理解する。 ○六分儀の誤差修正や取扱方法について理解する。	18	授業の取組 各時間の課題・レポート
5	(30日航海実習)	コミュニケーション機	○六分儀を使って太陽の高度測定が行えるようになる。		
6	海事実務英語 IMO 標準海事通信用語 外地寄港地における基礎英会話 期末考査	能の基本 交信準備 方位	○船舶職員として必要な基本的な海事実務英語を習得する。		
9	基本航海計器 レーダ	原理と構造 指示方式	○レーダの構成や使用方法について理解する。 ○レーダープロティングの作図方法を	15	授業の取組 各時間の課題・レポート

10	中間考査	レーダの映像 衝突防止	理解する。 ○自動識別装置の概要や取扱いについて理解する。	1	
11	電子海図情報表示装置		○電子海図の概要や取扱いについて理解する。	12	
12	期末考査			1	
1 2	海上交通関係法規 港則法及び同法 施行規	海上交通	○海上交通の過密化や複雑化をふま え、海上交通の基本となる海上法規 の基本的な内容を理解する。	15	授業の取組 各時間の課 題・レポート
	学年末考査			1	

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

- 授業で配付したプリントおよび課題
- 長期休業中の課題、ノート

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○航海計器に関心を深め、進んで知識を習得しようとしている。 ○海事従事者の一員として望態度や心構えを身に付けようとしている。	○基本海事実務英語を話することができる。 ○航海計器の各種調整が状況に応じて適切に行うことができる。	○その場、その時の状況に応じ航海計器の各種操作が適切に行うことができる。	○航海計器を適切に扱うために必要な基礎知識を身に付け、理解している。
<p>以上の観点を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取組状況（授業態度、出席状況、発表、学習参加状況など） ○提出物（レポート、プリント、ノート）の内容及び期限の厳守 ○小テスト（小単元毎）、定期考査（年間4回）、自己評価などから総合的に判断します。 			

6 担当者から一言

航海計器の発達で当直の様子が変わってきています。船舶を安全かつ適切に航海させるために必要な航海計器の取扱いや、操作方法について技術を学ぶ科目です。

学習活動を通じて、船舶の安全運航と海上業務の基本的な事गरら覚え、それらを活用できる能力と態度を身に付けるために努力しましょう。
(担当 岩谷和彦)

